



公益社団法人

北海道トラック協会

私たちは北海道内のトラック事業者で構成する公益社団法人です



平成30年胆振東部地震での取り組みと 今後の救援物資輸送の在り方

平成30年12月25日

公益社団法人 北海道トラック協会
ヤマト運輸株式会社

札幌市内への物資供給（札幌市×ヤマト）



■ 札幌市内全10区への支援物資

9月7日札幌市より正式要請

札幌市内10区76か所へ物資供給

配達リスト【白石区】

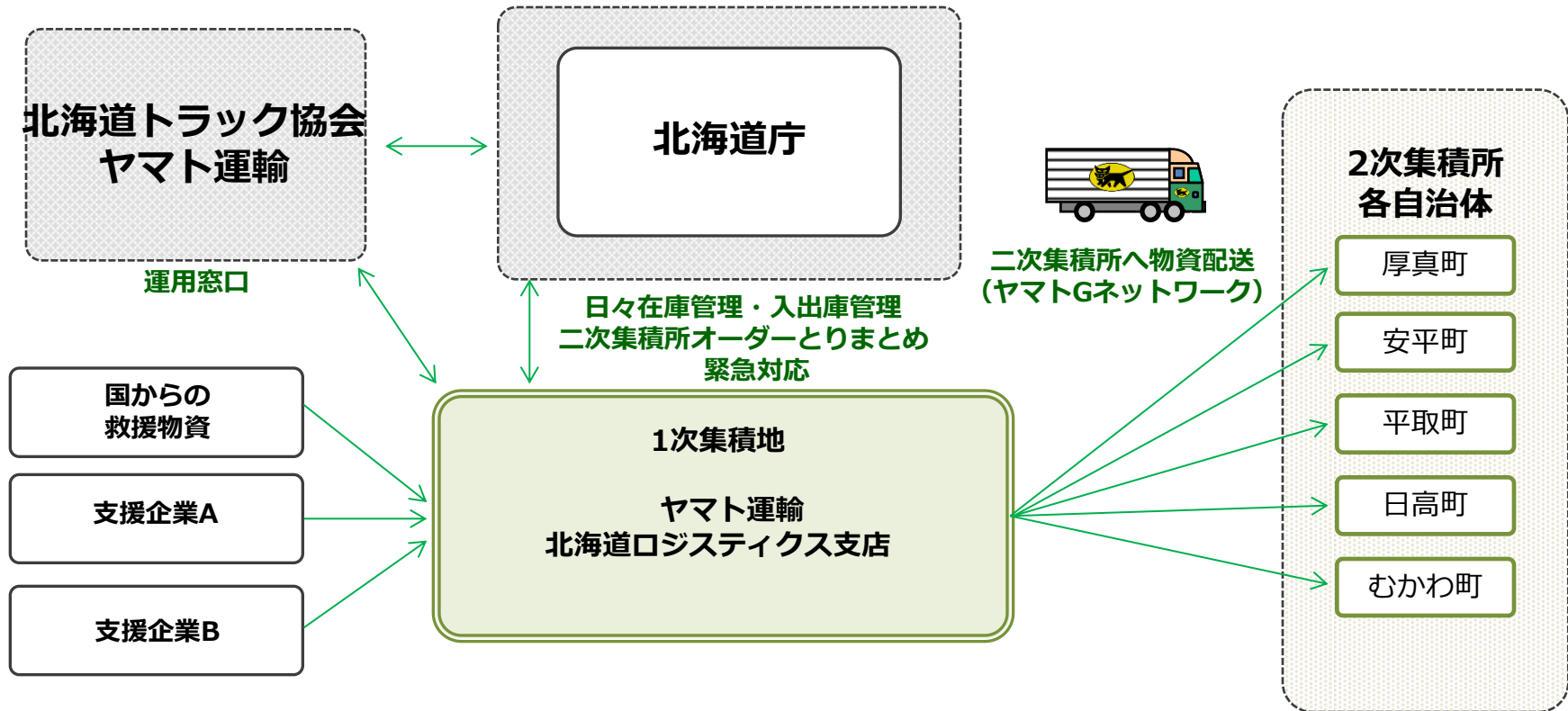
No.	施設名	区	所在地	避難者数	ケース数	
1	札幌コンベンションセンター	白石区	東札幌6条1丁目1-1	545	63	完了
2	白石区民センター	白石区	南郷通1丁目南8-1	200	23	完了
3	白石区体育館	白石区	南郷通6丁目北1-1	185	21	完了
4	東札幌小学校	白石区	東札幌4条5丁目4-20	178	20	完了
5	川北小学校	白石区	川北4条2丁目2-1	100	11	完了
6	大谷地小学校	白石区	本通18丁目南1-1	95	11	完了
7	南郷小学校	白石区	本郷通4丁目南3-1	68	7	完了
8	北白石中学校	白石区	北郷6条3丁目5-1	61	7	完了
9	本郷小学校	白石区	南郷通10丁目南3-1	50	5	完了
10	幌東小学校	白石区	菊水6条3丁目2-65	49	5	完了
11	北都中学校	白石区	川下749番地56	46	5	完了
12	北郷小学校	白石区	北郷4条5丁目1-1	42	4	完了
13	白石区役所	白石区		208	27	完了
				1827	209	



7日現在、札幌市内で11,187人が避難



【全体フロー】



■ 1次集積地の役割

- ・ 国・支援企業から納品される救援物資の入出庫管理（道庁連携）
- ・ 商品コード・ロケーションの作成（苫小牧埠頭運用の引き継ぎ）
- ・ 炊き出し食材の輸送（恵庭イトーヨーカドー⇒むかわ町）
- ・ 救援物資輸送

1次集積地の様子 (9/15～)



2次集積地運用開始 (9/18～)



【むかわ町】

9/18 (火) ~ 11/10 (土)



【厚真町】

9/20 (木) ~ 12/7 (金)



止まらない物資の供給

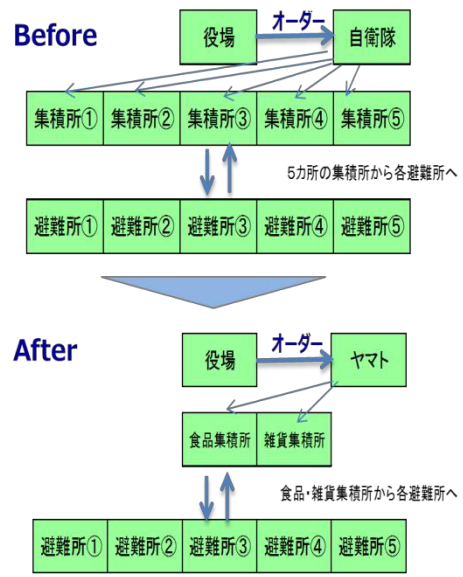


陸上自衛隊との共同作業

【安平町】

10/4 (木) ~ 11/30 (金)

【運用スキーム】



【新たな在庫管理】



【むかわ・厚真 在庫管理表】

大分類	中分類	品名	入数	消費期限	備考	現在庫数 (ピース)	現在庫数 (ケース)	出庫数 ピー	出庫数 ケー	入庫数 ピー	入庫数 ケー	当日最終 在庫ピー	当日最終 在庫ケー
食品	レトルト	おに ドライカレー	50	2021/12/00		0	0					0	0
食品	レトルト	おに 非常食1日分セット	5	2019/3/11		0	14					0	9
食品	レトルト	おに 非常食1日分セット	5	2018/11/12		8	4					8	4
食品	レトルト	グリコ 豚カルピ丼	10	2019/7/00		4	0					4	0
食品	レトルト	ドライカレー-ST	50	2018/10/30		0	2					0	2
食品	レトルト	日ハム レストランカレー	10	2019/9/8		0	20					0	20
食品	レトルト	日本丸 ドライカレー	10	2019/6/24		0	1					0	1
食品	レトルト	日本丸 ビーフカレー	30	2020/5/24		0	10					0	10
食品	レトルト	ハウス カレー	30	2019/8/18		0	1					0	1



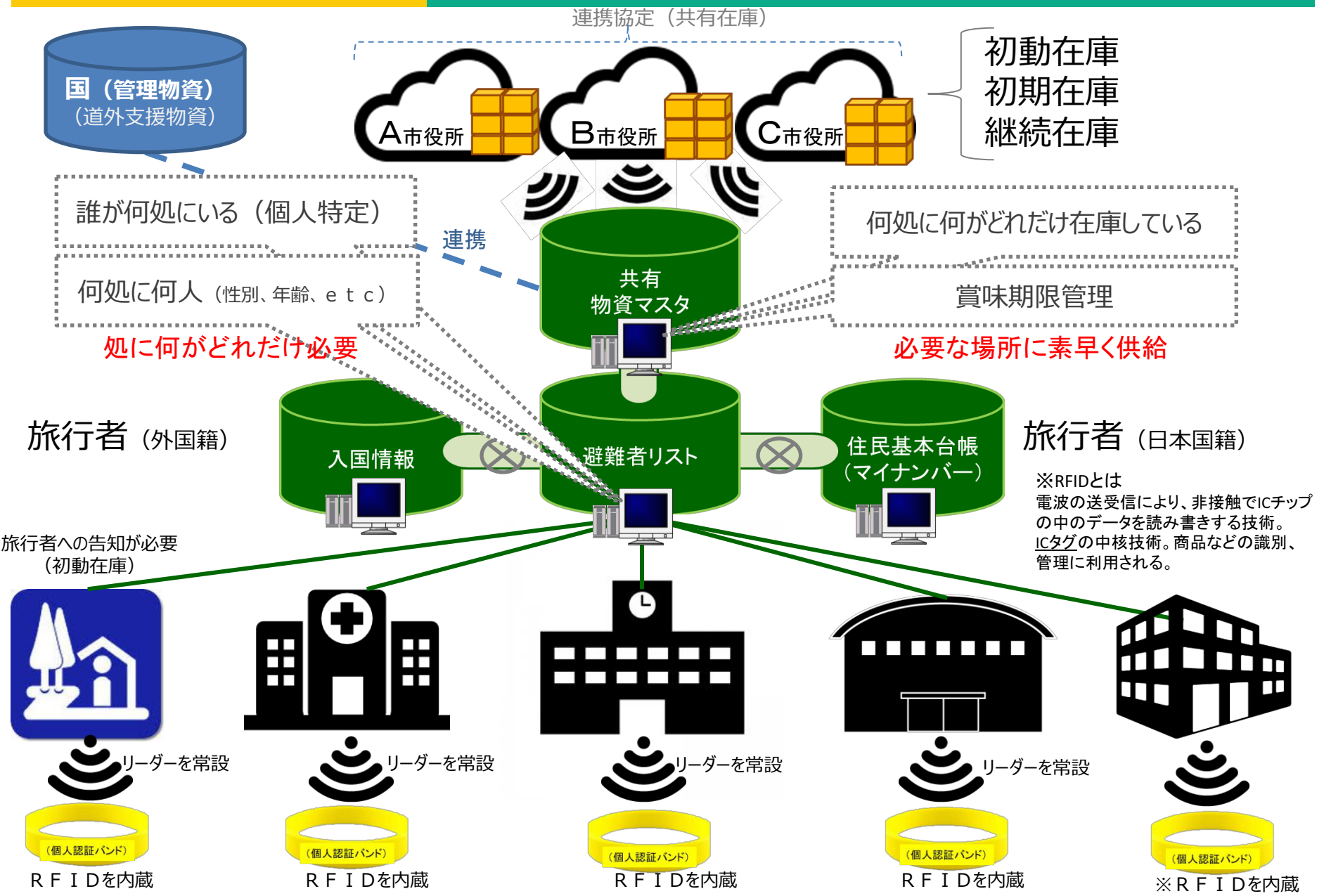
★1次集積地

- 発災後のレポートラインが煩雑になっている
⇒道庁・自治体・自衛隊との連携手段が電話のみ
- 在庫があるのに可視化されていない
⇒避難者からの要請に迅速に対応可能とするシステムが必要
- 災害対策本部との情報共有手段が限定されている。（電話・FAXのみ）
⇒救援物資関連の出荷依頼からアナログ

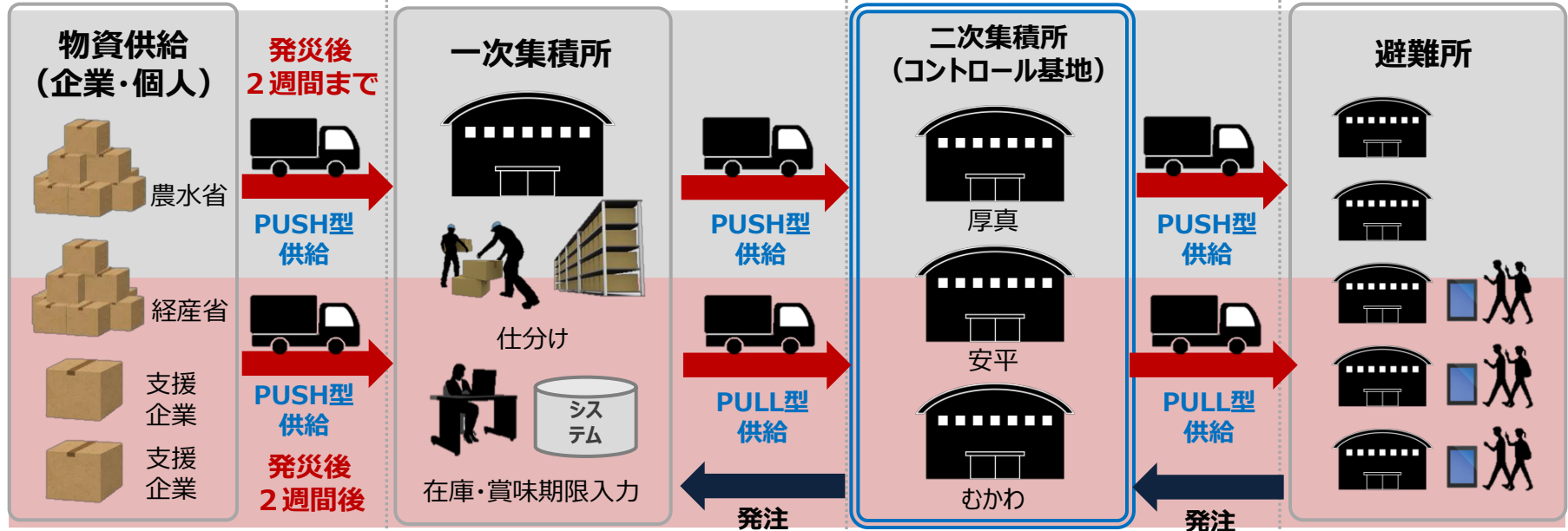
★2次集積地（厚真・安平・むかわ）

- 在庫があるのにデータ化されていない
⇒当方が入ってからデータ化
- 在庫を可視化（データ化）しても避難所には共有されない
⇒需給のアンマッチが発生
- 避難者が欲しいものを欲しいだけ供給出来ていない
⇒欲しいものが無い、欲しい量がない（メインの供給は水・飲料水） ←水しか無いと思っているのでは？

究極の「物資供給」を目指して①

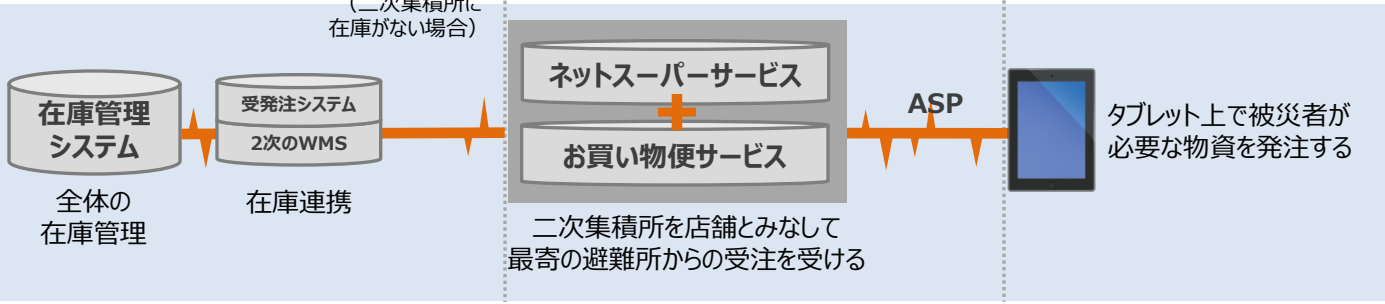


究極の「救援物資供給」を目指して②



【発災後2週間まで】
市町村は発災後2週間まで生活出来る物資を備蓄

【発災後2週間後】
避難者から個別に欲しいものを受けける仕組みに変更し2次集積地を主拠点とする



1) 物資供給

- ① 国からのPUSH型供給
- ② 支援企業からの供給

2) 一次集積所

- ① 供給されてきた物資を分類する
- ② 在庫及び賞味期限管理
- ③ 個人データから分析し必要物資を供給
- ④ 2次集積地からオーダーがあった物資を供給

3) 二次集積所

- ① 在庫管理および賞味期限管理
- ② 避難所から個人ごとにオーダーがあった物資を輸送する

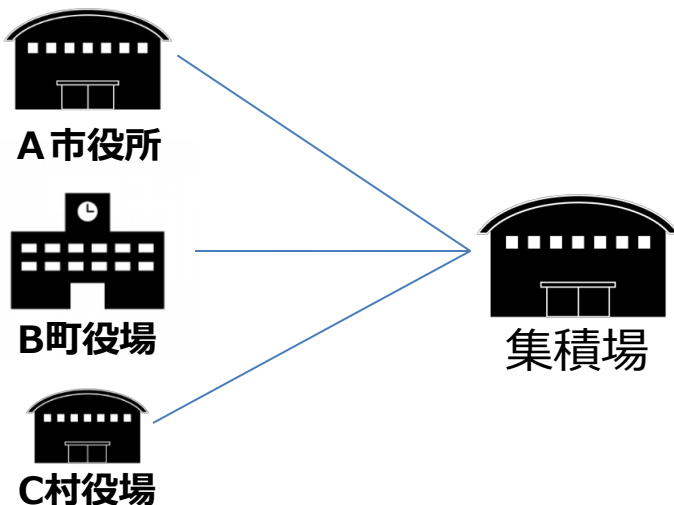
4) 避難所

- ① 二次集積所の在庫を閲覧可能にする
- ② 避難所から必要な物資を個人単位で発注



広域にエリア特性を持つ北海道において、自治体ごとに保有している物資の「共有化」を実現させる

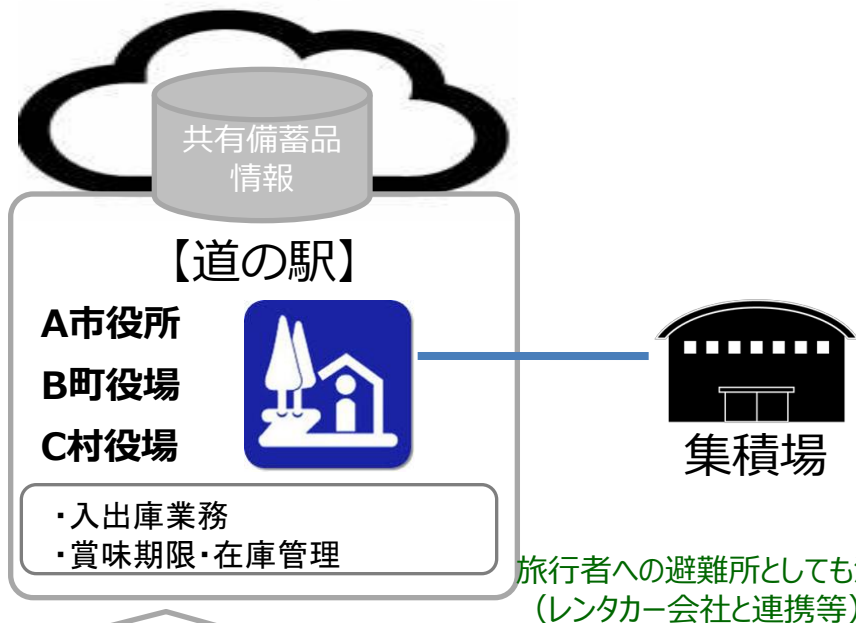
Before



各市町村、各部署毎に管理しているため、業務が煩雑（保管スペースがない）

- ①現在の備蓄品管理の多くは管轄部署ごとの為、物資が点在し業務が煩雑化
- ②発災後の災害備蓄品の供給が遅延する可能性がある

After



主要幹線上に位置し、緊急情報手段が整備されている道の駅に共有DCを設置

- ①公共施設である道の駅に共有の備蓄保管機能を設置し、近隣市町村の物資を共有化
- ②国道沿線に備蓄する事で迅速に輸配送に繋げる

物資拠点案②：ヤマト物件

共有化した物資の保管拠点に

